

資料

鹿児島県における2010年度のインフルエンザ流行状況

上 村 晃 秀 御供田 睦 代 吉 國 謙一郎¹
 濱 田 まどか 湯 田 充 典² 藤 崎 隆 司

1 はじめに

2009年4月にメキシコ、米国で報告されたブタインフルエンザ由来の新型インフルエンザA (H1N1) pdm (以下「AH1pdm」という。)が、世界各地で大流行(パンデミック)となったことは記憶に新しいところである。

本県においては、パンデミック後の2010年5月に大島郡知名町でAH1pdmによる集団発生があった。

また、同年12月には、出水平野に飛来するツル6羽から高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)が検出され、翌月、同地区のニワトリ7羽からも同ウイルスが検出された。

AH1pdmは、2011年3月31日をもって、「感染症の予防及び患者に対する医療に関する法律」第44条の2第3項の規定に基づき、通常の季節性インフルエンザと同じ取り扱いになった。

本報では、2010年度における県内のインフルエンザ流行状況について、各種サーベイランスや集団発生時等における行政依頼検査の結果を基に解析したので報告する。

2 対象及び方法

2. 1 インフルエンザ患者発生状況

全国及び県内の患者発生状況について、感染症発生動向調査報告を基に解析した。

2. 2 各種サーベイランス及び行政依頼検査

リアルタイムRT-PCR法により検査し、インフルエンザの型別を行った。

2. 2. 1 病原体サーベイランス

2010年4月から2011年3月までの間に、インフルエンザ病原体定点医療機関から依頼のあった43件について検査

を実施した。

2. 2. 2 インフルエンザ重症サーベイランス

2011年1月及び2月に、医療機関でインフルエンザと診断され、急性脳症、人工呼吸器装着、集中治療室入室等の重症化及び死亡が確認された6件について検査を実施した。

2. 2. 3 検疫における行政依頼検査

2010年7月15日に、検疫においてインフルエンザ様疾患が疑われたベトナム帰国者1件について検査を実施した。

2. 2. 4 集団発生時における行政依頼検査

インフルエンザ様疾患集団発生における検査について、表1のとおり実施した。

表1 集団発生件数

2010年	5月14日	知名町	10件
	11月26日	南さつま市	10件
2011年	2月16日	南さつま市	6件

2. 2. 5 高病原性鳥インフルエンザ対策の検査

高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)が検出された養鶏場の殺処分等に従事し、健康観察時にインフルエンザ様症状を呈した者6名について、H5亜型を含めた検査を実施した。

3 結果及び考察

3. 1 インフルエンザ患者発生状況

2010年度のインフルエンザ発生状況は、第48週(11/29~12/5)に、流行開始の指標とされている定点

1 鹿児島県北薩地域振興局保健福祉環境部

2 医療法人 玉昌会 高田病院

〒895-0041 鹿児島県薩摩川内市隈之城町228-1

〒892-0824 鹿児島県鹿児島市堀江町5番1号

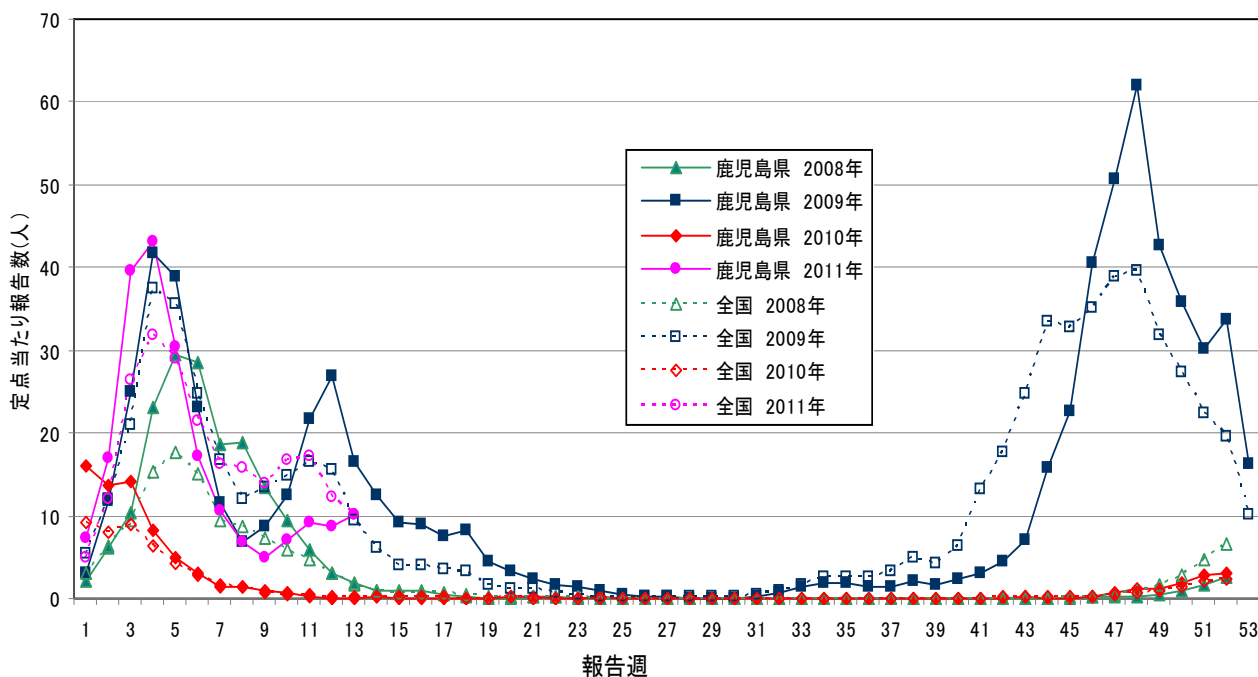


図1 インフルエンザ 定点当たりの患者報告数の推移 (国・県)

当たり報告数1.00を超え、その後報告数の増加傾向が続
き、2011年第3週 (1/17~1/23) に県内で流行発生警報
が発令され、第4週 (1/24~1/30) にピークを迎えた。
ピーク値は定点あたり報告数43.24で、2009年のAH1pdm
流行時のピーク値 (61.95) より低かった (図1)。

3. 2 各種サーベイランス及び行政依頼検査結果

3. 2. 1 病原体サーベイランス

2010年11月から12月中旬にかけて、AH3 (香港型) が
検出され、2010年度はAH3が流行することが予想された。
しかし、12月下旬に入りAH1pdmの検出率が高くなり、
さらに2011年1月以降の検出では、そのほとんどが
AH1pdmとなったことから、2010年度の流行発生のピー
ク (第4週) は同ウイルスによる感染者が最も多かった
と推察された (表2)。

表2 月別の検査結果

(単位: 件)

型別	2010年		2011年			合計
	11月	12月	1月	2月	3月	
AH1pdm	—	5	20	5	—	30
AH3	1	4	2	—	—	7
B	—	—	—	—	4	4
陰性	1	—	—	1	—	2

3. 2. 2 インフルエンザ重症サーベイランス

6件の検査を実施したところ、AH1pdmが4件、陰性が
2件であった。また、AH1pdmが検出された患者1名につ
いては、死亡が確認された。

3. 2. 3 検疫における行政依頼検査

高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) の流行地である
ベトナム帰国者であったが、検査結果はAH3であった。

3. 2. 4 集団発生時における行政依頼検査

2010年5月に発生した知名町の検査結果はAH1pdm が9
件、陰性が1件であった。この知名町での集団発生事例
(AH1pdm) は、前年から続いたAH1pdmによる流行が
沈静化し、集団発生もほとんどなかったことから全国的
にも注目されることとなった。

この発生状況及び詳細な検査結果については、国立感
染症研究所感染症情報センターが発行する病原微生物検
出情報 (IASR) ^{1),2)} の速報記事に取り上げられた。検出
したインフルエンザウイルスは、前年流行したAH1pdm
と同様のタイプであったこと、遺伝子の変異は認められ
なかったことが分かり、新たなインフルエンザウイルス
の発生ではなかった。

また、同年11月に発生した南さつま市の検査結果は
AH3が10件で、2011年2月に発生した同市の検査結果は
すべて陰性であった。

3. 2. 5 高病原性鳥インフルエンザ対策の検査

搬入された検体6件の検査結果はAH1pdmが4件，AH3が1件，陰性が1件であり，すべての検体においてH5亜型は検出されなかった。今後も高病原性鳥インフルエンザが発生する可能性もあり，作業従事者の作業前後の健康管理や作業中の感染予防対策について，さらに指導を強化していく必要がある。

4 まとめ

当センターにおいて検査した82件のうち，AH1pdmが47件，AH3が19件，B型（Victoria系）が4件，陰性が12件であった。この結果から2010年度のインフルエンザの流行状況は，AH1pdmが主流であったと考えられた。

鳥インフルエンザ（H5N1）及び未知の新型インフルエンザの発生に備え，AH1pdmでの経験を生かし，今後の対策に役立てていくことが最も重要であると思われる。さらに，現在稼働している感染症発生動向調査事業に加え，薬局サーベイランス及び学校欠席者情報システム等を活用し，県民に対し正確かつ迅速な情報提供に努めたい。

参考文献

- 1) 上村晃秀，御供田睦代，他；沖永良部島の知名町における新型インフルエンザA/H1N1pdm集団発生-鹿児島県，病原微生物検出情報，31（6），21～22（2010）
- 2) 上村晃秀，御供田睦代，他；沖永良部島の知名町における新型インフルエンザA/H1N1pdm集団発生-鹿児島県 [最終報告]，病原微生物検出情報，31（8），10～11（2010）